Central Weekly Market Report　NO. 1003

2020年8月7日
セントラル短資株式会社　総合企画部

今週（8月3日から8月7日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、税・保険料揚げや短国・国債の発行要因などが多く、日銀当座預金残高は450兆円台前半から440兆円台後半まで減少した。無担コールO/Nは、先週に引き続き、調達サイドが全般的に強い展開となった。業態別にみると都銀業態で▲0.030～▲0.020%、地銀業態で▲0.030～▲0.015%、信託業態で▲0.030～▲0.020%、証券業態で▲0.022～▲0.020%と、狭いレンジでの出合いが中心となった。加重平均レートは概ね▲0.02%程度で推移した。ターム物は月内のショートタームで▲0.030～▲0.020%の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは7日に2W物・20,000億円がオファーされ、2,851億円（期落ち額3,061億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/NGCは週を通して投資家の資金調達ニーズが見られたことで、概ね▲0.07%前後の出合いとなった。週初3日のT/Nは▲0.07%の出合い。翌4日のT/Nは▲0.075～▲0.065%の出合い。その後も同水準の出合いが続いたが、週末7日のT/Nは短国の発行が重なったこともあって、▲0.05%程度までレートが上昇した。

SCについては、5y140～143、10y354～358、20y169～173、40y13にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、在庫の積み上がりを受けて、軟調に推移した。特に6M物においては、在庫の積み上がりや、オペ売却への期待感が弱まったことからレートが上昇し、6日の入札以降は▲0.130%台で推移する展開となった。3M物は、▲0.082～▲0.075%と軟調に推移する中、週末の入札後は▲0.06%台での出合いとなった。1Y物は動意なく閑散なマーケットとなった。

4日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円減額の20,000億円でオファーされた。市場予想の下限額だったこともあってか、平均落札利回較差+0.010%、按分落札利回較差+0.008%と、やや弱めの結果となった。

6日に実施された6M物の入札は、WI取引において、▲0.150～▲0.137%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1454%、按分落札利回▲0.1375%と、弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.137～▲0.135%の出合いと、軟調に推移した。

7日に実施された3M物の入札は、WI取引においては▲0.078～▲0.074%での出合いが見られたものの、平均落札利回▲0.0737%、按分落札利回▲0.0669%と、弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.070～▲0.063%出合いと、按分付近での出合いとなった。

●CP市場

今週のCP市場は、3,200億円程度の償還総額に対して、商社・機械等からまとまった発行が実施されたことで、発行総額は4,000億円強となった。先行き不透明感の強い中、事業法人の発行ニーズは引き続き堅調であり、市場残高は週を通して25兆円台後半で推移した。7月と比較すると増加ペース自体は鈍化しているが、日次ベースでは過去最高残高を連日更新した。発行レートは、新型コロナ対応オペの担保需要等から9月末越えの希少銘柄で積極的な水準での買い姿勢が一部で観測されたものの、過去最高水準の市場残高を背景に、殆どの銘柄で0%から若干のマイナス程度での決着が中心となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N (加重平均･%)	東京レポレート(翌日物･ T+1スタート･%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/3 (月)	22,195.38	0.020	106.20	△ 0.020	△ 0.065	4,532,600
8/4 (火)	22,573.66	0.010	106.12	△ 0.021	△ 0.073	4,478,500
8/5 (水)	22,514.85	0.005	105.60	△ 0.022	△ 0.061	4,470,900
8/6 (木)	22,418.15	0.015	105.53	△ 0.022	△ 0.063	4,475,500
8/7 (金)	22,329.94	0.005	105.58	△ 0.020	△ 0.057	4,486,700

来週（8月11日から8月14日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/10（月）	山の日				
8/11（火）	7月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 6月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)				7月の米生産者物価指数
8/12（水）	7月のマネーストック(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 8/13発行	交付税借入 10,000億円 8/21借入		7月の米財政収支 7月の米消費者物価指数 4-6月期の英GDP速報値
8/13（木）	7月の企業物価指数(日銀 8:50)				
8/14（金）	6月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 75,500億円 8/17発行	流動性供給 5,000億円 8/17発行	国有林野借入 963億円 8/25借入	7月の米小売売上高 6月の米企業在庫 7月の米鉱工業生産・設備稼働率 8月のミシガン大消費者信頼感指数速報 4-6月期のユーロ圏GDP2次速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/10（月）	山の日								
8/11（火）	500	▲ 30,000	▲ 29,500	国債買入 全店共通 CP買入	 ▲ 3,100 ▲ 300	9,500 2,900	9,000	▲ 20,500	TB3M発行▲75500償還66200 TB6M発行▲33000償還13100
8/12（水）	0	5,000	5,000				0	5,000	
8/13（木）	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	社会保障費 源泉所得税揚げ 流動性供給▲5000
8/14（金）	▲ 1,000	72,000	71,000	国債売現先(米ドル) 新型コロナ支援	1,700 ▲ 86,800		▲ 85,100	▲ 14,100	年金定時払い 交付税借入▲10000期日10500
週 間 合 計	▲ 500	42,000	41,500	—	▲ 88,500	12,400	▲ 76,100	▲ 34,600	

8/11は日銀予想、8/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、無担保コールO/Nは、今積み期間の最終日である14日までは高止まりの展開が予想される。14日は新積み期間の16日を含む取引となるため、若干低下する可能性も考えられる。レポ市場は、引き続き投資家の調達が入ることが予想され、GC T/Nは安定的に▲0.07%前後の出合いになることが予想される。短国市場は、14日に3M物の入札が実施予定となっている。需給が悪化する中、需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、12日に実施が見込まれる短国買入オペのオファー額も注目される。CP市場は、夏季休業に入る事業法人が多く、閑散なマーケットになると見込まれる。期末越えのレート水準や、市場残高の動向が注目される。

主要なイベントとしては、海外では12日に7月の米消費者物価指数、4-6月期の英GDP速報値、14日に4-6月期のユーロ圏GDP2次速報が公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。
セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入